

人々の生き方はいろいろ違います。性格も違うし、親からもらった顔立ち、体つきもそれぞれ違います。今日の福音のヨセフもすごい生き方をしています。ヨセフの洗礼名をもらっている方いらっしゃいますか？ このヨセフの生き方、幸せに見えますか？ 自分が愛した女性、その人と結婚しようと決めていたのに、その女性が自分の知らない人の子をみごもったのです。どんな気持ちになったと思いますか？ もし、自分がヨセフの立場だったらどうですか？ すべてを賭けて、人生と一緒に生きようと思っていた女性ですよ。怒るでしょう。殺したい気持ちさえ出てくるかもしれません。絶望しますよね。しかし、聖書には「彼は正しい人だったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した」とあります。その上、夢の中に天使が現われて「恐れず妻マリアを迎えいれなさい。胎の子は聖霊によって宿ったのである・・・」

(マタイ1・18～22)と言うと、その言葉を信じて天使の言う通りにしたとあります。聖書の中にヨセフの話したという言葉は一言もでていません。彼は最後まで口を閉じて、妻マリアと子供であるイエス様の世話をしました。神様から与えられた自分の役割を果たしました。

ヨセフの人生をうらやましいと思いますか？ 神様から皆様に与えられた役割があります。必ず、それぞれにそれぞれの役割があります。神様の救いの歴史が全うされるためにいろいろな役割が必要です。今の皆様の生きる環境も救いの歴史の役割を果たすためのものです。神様は私達の中にも計画を持っていらっしゃいます。そのご計画に協力しているかどうか考えてみましょう。

今日は待降節最後の日曜であり、あと一日でクリスマスですね。何をすればイエスさまに素晴らしいプレゼントができるでしょうか？ 何を準備しようと思いますか？ ケーキですか？ 施しですか？ 今できることでイエス様を一番喜ばせることは何でしょう？

今、憎んでいる人がいますか？ どうしても許せない人がいますか？ その相手とは大体自分を傷つけた人ですよね。人は自分を傷つけた人を憎みます。傷つけた相手を思いながら憎むのが自然の流れです。しかし逆もあります。自分によって傷つけられた人はいなかったでしょうか？ 自分が傷つけたことはすぐ忘れるのが人間です。御親切にね、はっきり傷をつける場合もあります。又、自分では知らないうちに傷つける場合もあるかもしれません。人というのは目の色(目つき)だけでも傷をつけたり、つけられたりするものです。

人間にとって一番難しいことが、自分を傷つけた人を許すこと、その人のために祈ることです。しかし、思い切ってやること。それが、自分を傷つけた人、自分が憎む人のために、又自分によって傷つけられた人のために、心を込めてミサに与(あずか)ることではないでしょうか。神様は「許しなさい」と言われました。でもそれで終わりではないのです。その人のために祈ることまで、私達に求めます。カトリックの信者であるなら、許すだけでなく、祈ることまで求められます。

イエスさまを喜ばせましょう。今10秒間、本当に嫌いな人、憎む人のために、それが妻か夫であるかもしれませんが、心を込めて祈り、又このミサを捧げましょう。これが、神様、イエス様を喜ばせる一番のプレゼントになります。

ありがとうございました。